

小児集中治療領域の国際学会は2年に1度、世界各地で開催されています。臓器移植周術期管理は、レシピエントとドナー双方の医学的管理のみならず、その社会的支援を含めて、小児集中治療における極めて重要な話題の一つです。2016年カナダ・トロント開催時のオープニング式典にて、心臓移植手術を複数回乗り越えて成人した青年のスピーチがあったことを鮮明に記憶しています。自身がフェローのときに診たお子さんが、約20年の歳月を経て立派に成長された姿を拝見するのは隔世の感がありました。しかし同時に、帰国後も長らく変化に乏しいわが国の現況に、忸怩たる思いも持ちました。

わが国でも2010年には小児脳死下臓器提供が法的に可能となり、先だって2008年にはイスタンブール宣言が出されているのですが、世界中で小児心臓移植が数多く行われている一方で、国内の10歳未満小児の心臓移植件数は、未だに年間10件に及びません。ベルリンハート（EXCOR）が2015年に国内承認されたことは喜ばしいことではありますが、ドナー不足がベルリンハート不足に置き換わっただけであり、本質的改善にはほど遠い状況にあります。

今回の特集テーマは「わが国の小児心臓移植」です。小児心臓移植にかかるわが国の現状について、そして海外の現状についてはトロントから御寄稿い

ただきました。また、移植に至るまでの補助循環の適応、移植自体の適応、やむを得ず選択せざるをえない場合の海外渡航移植の現状、最後に、脳死下臓器提供側の家族支援につき、第一線で活躍している医師ならびに移植コーディネーターの皆様から御寄稿いただきました。わが国が先進諸国の一員としてどのような姿勢で本件に取り組むべきか、一方、これまで蓄積されてきた精緻な国内議論をもとに御一考いただくうえでも、重要かつ最新の知見に満ちているものと思います。

その他、子どもを取り巻く環境とアレルギー疾患ならびに健康な育成についての社会小児科学領域の2稿、帯状疱疹や視力スクリーニングに関するトピックスの2稿もございますので、あわせて皆様の知見のお役にたてる特集であればと願っております。

コロナ禍は、昨今においても未だ活路が見えない難局におかれています。今回の特集テーマ「わが国の小児心臓移植」の道のりも困難なものではございますが、出口のないトンネルはございません。いずれも、必ずや光が見えてくるものと信じております。読者の皆様におかれましては患者さまに加えて、御自身の健康にもご留意のうえお過ごしください。

（清水 直樹）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第62巻 第5号 5月号

2021年5月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,080円（本体2,800円＋税10%）

年間購読料金

定価47,630円（本体43,300円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。